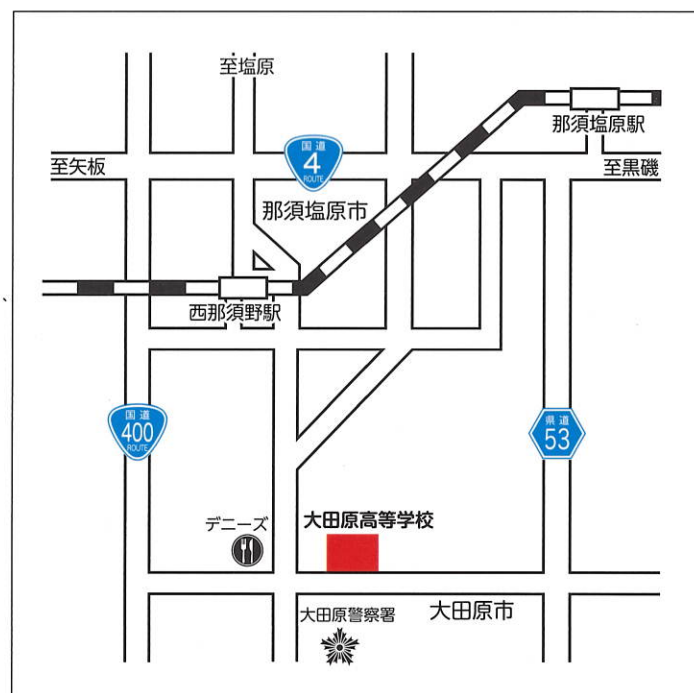




栃木県立大田原高等学校

〒324-0058 栃木県大田原市紫塚3丁目2651番地
TEL 0287-22-2042 FAX 0287-23-9691
URL <https://www.tochigi-edu.ed.jp/otawara/nc3/>
MAIL otawara@tochigi-edu.ed.jp



ホームページQRコード

所 負 素 堅 実



2024 栃木県立大田原高等学校

大田原高校で学ぶということ

—大高の理想—

質 素 堅 実

その意味するところは「表面を飾らず内面を磨くことであり、学問を深めながら心身を鍛練し謙虚で友情に厚く、本物の勇気を持つこと」である。初代尾河鐵太郎校長が定めたこの校訓は、一世紀以上の永きに亘り、本校で学ぶ若人の精神的支柱となって受け継がれている。

教育目標

- 真剣に学習に取り組み、豊かな創造力と正しい判断力を養う
- 心身を鍛練し、不屈の精神と逞しい実践力を養う
- 自他を敬愛し、感謝の心と奉仕の態度を養う
- 規律と責任を重んじ、協同・連帯の精神を養う

上に掲げた教育目標は、第19代堀内肖吉校長が昭和55年度に制定したものである。堀内校長は教員としては本校剣道部が全国制覇したときの監督であり、校長として就任後、校訓「質素堅実」にふさわしい学校行事の必要性を説かれ、85キロ強歩の基を築いた校長である。

目指す学校像

校訓「質素堅実」のもと文武両道の実践を目標に掲げ、学習と部活動の両立や生徒会活動等に積極的に取り組むことをとおして、未来を力強く切り拓くとともに、社会の発展に貢献できる逞しいリーダーを育成する学校



関東地区高等学校写真展奨励賞作品「大高祭万歳同盟」

教育実践

1 「心」をみがこう、そして「命」を大切に

本校は入学生のほとんどが大学進学を考えている進学校であり、日々の活動の中心は学習である。従って進路や受験を考えることはとても大切だが、その前に人としての正しい判断や正しい行いを自然に実践できることは、それ以上に大切である。諸君は心の中に、自分の行動を見つめるもう一人の自分の存在に気付いているだろうか？ それを「自我」と言ったり「心の鏡」と言ったりする。高校時代は、正義感や勤労観、奉仕の精神、感謝の心、克己心、友情など倫理的に価値あるものを自分の中に獲得しながら自我を確立する時期である。我々大高の教職員はそうした時代のまっただ中にある諸君に接していることを自覚しながら、時には厳しく、愛情をもって諸君が人間的に成長することを願いながら日々指導することを心にかけている。さて、勉強より大切な心の教育だが、それよりも大事なことがある。それは命を大切にするということである。平成29年3月に本校は大切な7名の生徒と1名の教員のかけがえのない命を雪崩事故で失ってしまった。平成31年1月には卒業目前の3年生が信号無視の車にはねられて尊い命を奪われてしまった。こうした事故を教訓として、我々教職員は登下校を含めたあらゆる教育活動の中で決して生徒や職員が命を失うことのないよう、安全対策と安全教育に最大限の力を注いでいる。また、感染症対策を含め、予測不能な現代社会において、予見できるリスクを洗い出し、その対応策を検討、実施することで、安全・安心な学校づくりに取り組んでいる。

2 高校時代は人生の岐路を迎える時期、将来を展望する視点を生徒に養う

本校は普通科高校である。普通科では高校卒業までの三年間に将来進む方向や職業を選択し、その方向や職業に向かう「進路」を実現させるために大学を選択することになる。この選択は人生の中でも大切な選択であるから、本校では学年に応じた指導計画の中で、大学卒業後の人生も見据えた人生の設計図を描けるよう指導している。これまでの15年とこれからの15年では、選択肢の数や選択の重みが全然違う。進学、就職など、人生を大きく方向付ける決定が目白押しの15年である。そこでこうした重要性に鑑み、本校ではキャリア教育に力を入れている。卒業生には国内外で活躍している先輩が多数存在している。こうしたOBをキャリアモデルとして活用しながら、様々なプログラムを用意している。

3 将来に備えることは大切であるが、青春時代の今を濃く熱く生きることにも意味がある

受験勉強は将来に備える大切な学習だが、高校の三年間は生徒一人ひとりにとって人生で一度きりの特別な時間である。この多感な高校時代に、勉強だけでなく部活動や学校行事に打ち込むことで、机の上の勉強だけでは学べない、友情・協調性・粘り強さ・リーダーシップなど、たくさんの得難いものを得ることができる。我々大高の教職員は生徒達の「今」も「将来」と同様に大切であると考え、部活動への参加を奨励し、学校行事の充実とその企画運営を生徒が中心になって行うということに心を砕いている。

また、克己心を養うための伝統行事に85キロ強歩と寒稽古がある。自分の中の弱さに向き合い、それを克服するという経験はその後の人生に必ず活かせるものである。入学して、本校ならではのこうした行事に向き合って欲しい。

■大高3年間の文理選択型カリキュラム

生徒一人ひとりの進路実現を目指します。

令和7（2025）年度入学生の例

1年共通	現代の国語(2)	言語文化(3)	歴史総合(2)	公共(2)	数学Ⅰ・A・Ⅱ(6)	物理基礎(2)	生物基礎(2)	体育(2)	保健(1)	芸術(2)	英語コミュニケーションⅠ(4)	論理・表現Ⅰ(2)	家庭基礎(2)	SS研究Ⅰ(1)	LHR(1)
2年文型	論理国語(2)	文学国語(2)	古典探究(2)	世界史探究/日本史探究(2)	地理総合(2)	数学Ⅱ・B・C(6)	化学基礎(2)	生物概論(2)	体育(3)	保健(1)	英語コミュニケーションⅡ(4)	論理・表現Ⅱ(2)	情報Ⅰ(2)	SS研究Ⅱ(2)	LHR(1)
2年理型	論理国語(2)	古典探究(2)	地理総合(2)	数学Ⅱ・B・C(6)	物理/生物(3)	化学(3)	化学基礎(2)	体育(3)	保健(1)	英語コミュニケーションⅡ(4)	論理・表現Ⅱ(2)	情報Ⅰ(2)	SS研究Ⅱ(2)	LHR(1)	
3年文型	論理国語(2)	文学国語(2)	古典探究(3)	世界史探究・世界史考察/日本史探究・日本史考察(6)	政治経済(3)※	応用数学α・β(5)※	科学概論A/B(3)※	体育(2)	英語コミュニケーションⅢ(4)	論理・表現Ⅲ(2)	SS研究Ⅲ(1)	LHR(1)			
3年理型	論理国語(2)	古典探究(2)	地理探究(4)	数学Ⅲ(5)	数学C(3)	化学(4)	物理/生物(4)	体育(2)	英語コミュニケーションⅢ(4)	論理・表現Ⅲ(2)	SS研究Ⅲ(1)	LHR(1)			

3年文型の※について、公民、数学、理科の代わりに芸術、家庭、体育、英語、国語から科目を選んで学習することもできます。

SSH(Super Science Highschool)活動



令和6(2024)年度 SSHⅡ期目指定!! 研究開発期間:2024年度~2028年度(5年間)
研究開発課題名: グローカルな視点と総合知の活用により創造性を育む文理融合型課題研究の開発

大高のSSH(実践型)事業

目的: 学際的かつグローバルな視点を意識した文理融合型課題研究に取り組むことで、課題発見・解決能力、統計・データ処理能力、プレゼンテーション能力、創造的思考力、批判的思考力等を育み、国内外を問わず科学技術分野やDX分野等で新しい価値を創造・発信できる人材を育成する。

課題研究プログラム

全生徒が対象であり、文理融合型課題研究にグループやゼミで取り組み、協働力を高め、科学に関する資質・能力を養う。



ワークショップ



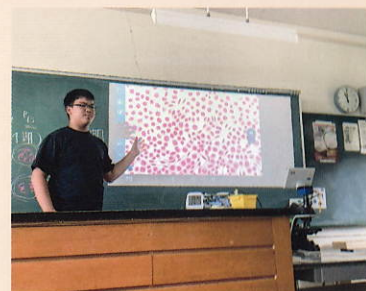
班別研究



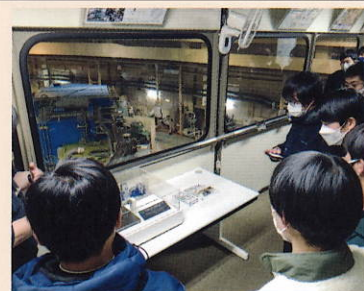
中間発表会

科学技術人材育成プログラム

国内外の大学や研究機関と連携し、より高度な科学に触れ、本校生のみならず他校生も含めた参加生徒が、科学に関する資質能力を高め、国内外を問わず科学技術分野で新しい価値を創造・発信できる能力を養う。



ICT活用



つくば研究施設見学会(KEK)



アジア学院との交流

3年間の取組み

1学年 課題研究ガイダンスⅠ
探究講座Ⅰ
計画書討論会
中間発表会

2学年 課題研究ガイダンスⅡ
探究講座Ⅱ
ポスター発表会
成果発表会

3学年 課題研究ガイダンスⅢ
スキルアップ講座
英語活用発表会
大高論文集作成

SSCの活動

課外活動でより深く学びたい生徒は、SSC(スーパーサイエンスクラブ)で科学を追及していく。



飯館村実施研修



わくわくドキドキサイエンス

多様な学習環境の提供

■教科等横断的な視点を持った教育

本校では地域、日本、さらには世界で活躍する人材育成を担う役割を果たすために、深く広く考える力を養い、他分野を融合して考える力を身に付けます。そのため、各教科の授業・SSH課題研究・特別活動すべてが相互に関わりがあるとの意識を持って教育活動にあたっています。

■ICTを利用した教育活動の推進

各教室に電子黒板を設置し、生徒の興味関心を刺激する授業実践に努めている。また、オンライン(Zoom)により諸行事を実施し活動の幅を広げている。

■早朝・放課後の学習の推奨

本校では朝の学習と居残り学習を推奨している。多くの生徒が朝早くから登校し学習に取り組む一方で、放課後は夜7時まで開放されている図書室や進路指導室で黙々と机に向かっている。

■土曜開放と長期休業中の課外

月1~2回の土曜日に学校を開放し、生徒が自主的に学習に取り組める環境を提供している。また、夏季休業中には課外授業を実施し、1,2年生は国語・数学・英語の3教科を中心に、3年生は地歴公民・理科を中心に、塾に頼らなくとも受験に対応できる学習サポートを行っている。3年生については平日の放課後にも課外授業を実施している。

■面談等のサポート体制

本校では生徒との個人面談に力を入れている。クラス担任だけでなく、副担任、教科担任、チューター等による面談を、年間を通して複数回実施している。学習、生活、進路等について、生徒の話をじっくりと聞き、的確なアドバイスをするサポート体制が整っている。



授業の様子



ICTを活用した授業



職員室前学習コーナー



居残り学習



土曜開放



個人面談

VOICE

SSH活動を通して
3年 豊田 晃基
私たちは、数学を用いて「最高の信号機を作る」ことを目標に活動してきました。SSHの班別研究が始動した頃は、何のために活動しているのか疑問を持っていました。しばらくの間は地道なデータの収集だけをしていましたが、指導教員の瀧澤先生のご指導のもと研究活動を進めた結果、最優秀賞を勝ち取ることができました。私は、このSSH活動を通して、数学が私たちの身の回りに多く用いられていることを実感しました。また、この経験で培った観察力や物事を多面的に捉える力をあらゆる面で活かしていきたいと思っています。

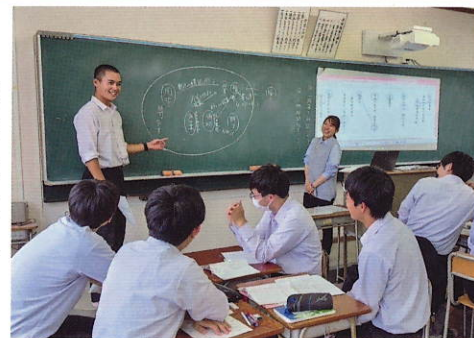
大田原高校に入学して
1年 佐藤 晴
私が大田原高校に入学して感じていることは、勉強はもちろん、様々な活動に全力で取り組める環境が整っているということです。大高での勉強は、授業の進みが早く、大変なのではないか感じている人もいると思います。しかし、心配はいりません。周りには、頼れる仲間や、優しい先生方がいます。もちろん、勉強についていこうとする努力は必要ですが、自分の学力をさらに伸ばせる環境が、大高にはあります。また、運動部、文化部ともに多くの部活動があるのも大高の特色だと感じています。部活動にも本気で打ち込める大高で、文武両道を目指せば、充実した学校生活になることは間違いないでしょう。

教科指導

国語科

『読解』から『表現』へ。確かな力を身につける

3年間を通して、「さまざまな文章を的確に読み取る力」、「自分の考えを適切に表現する力」を伸ばすことを目標とする。2年次までの基礎力の完成を目指し、漢字テストや古文単語テスト、助動詞テストなどを行う。また、読書を通して多くの視点に触れさせ、内省する態度を涵養する。3年次は大学入試に向け、記述力の充実を図り、実践的な演習を行う。小論文については、生徒一人ひとりに応じた個別指導を行う。



地歴・公民科

知識・技能をもとに考察する

地歴・公民科では、基本的な知識・技能を身に付けることが重要だと考え、授業の中で基礎知識の定着に努めている。視覚から得られる情報も重要であり、電子黒板を積極的に活用し、受験に対応できる知識・技能を養成している。さらに、身に付けた知識・技能をもとに主体的に考え、対話を通して深い学びを実現することが重要である。理解していることをどう使うか、思考力・判断力の育成に力を入れている。そのため、『なぜなのか』を生徒が考えることができるよう、授業を展開している。知識・技能を修得し、受験に必要な学力を身に付けるだけでなく、社会的事象に対する公正な視点や思考力・判断力を養成することを目指している。



数学科

粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察し、数学的な考え方を養う
授業では板書を写すことに集中するのではなく、「なぜ」「どうして」と考えながらその解決方法を聞くことが大切である。自分の言葉で表現することができるよう、ノートに重要なことをまとめよう。復習は、学習内容を定着させるために大変重要である。問題が解けなかったときは、どこがいけなかったのか、どうすれば解けるのかなどを考えてみよう。じっくりと思考することで数学の力を伸ばすことができる。また、宿題だけでなく、自分で決めた課題にも積極的に取り組んでみよう。大高は「自走」できる学習集団を目指している。



理科

自ら課題を発見し、解決する能力を育む

【物理】身近な現象から物理法則を見出し、学び、そして、物理の面白さを追求します。日々の授業だけでなく、高エネルギー加速器研究機構（KEK）をはじめ専門家による講座などを受講することで、真の物理力を磨く。

【化学】実験や日々の生活で触れる物質を通して化学的な法則について学び、これから必要とされる物質について考え、探究する姿勢を磨く。

【生物】複雑な「命」のシステムから、生命の大切さや偉大さを学び、その知識を元に、医療分野やバイオテクノロジー分野で応用できる基礎的な思考力を磨く。



保健体育科

人間力を鍛える

大高保健体育科の基本理念は、“人間力”を鍛えることである。単元活動はもとより、年間を通した補強トレーニングを通じ体力の向上に努めると共に、人として学ぶべき道徳・礼儀の育成にも力を注いでいる。また、25時間歩き続ける85キロ強歩は、規律ある態度と相互協力の心性の育成を柱に、克己的・禁欲的なストイックさを非日常的な体験から学び取る場である。このように授業や行事を通じて心身共にバランスのとれた人間力の陶冶を図っている。



芸術科

主体的に学ぶ力、表現力、感性

1年次に音楽・美術・書道の3科目より1科目を選択する。自ら選択した音楽・美術・書道の学習を通して、まずは「芸術に対して愛好心を持ち、感性を養う」ことを最大の目標として、芸術教育としての授業を行う。必修科目は1年次のみであるが、3年次に選択によって、希望者はより発展的な内容を学ぶことも出来る。



英語科

様々な事物についての関心を高め、思考・発信する力の養成を

英語力そのものに加えて、多面的な視点と表現力を育成することを目指している。1年次は4技能をバランスよく伸ばすため、文法を中心とした基本的な知識の定着に力を入れている。2年次と3年次は、大学入試等に対応できる力を身につけるため、より高度な英語に触れさせることで、各技能のブラッシュアップを狙う。更に、ALTとの授業では、英作文やディスカッション、ディベートなどの活動を通して、より実践的な英語力の育成を行っている。



家庭科

主体的に家庭と地域の生活を創造する資質・能力を育む

家庭科では、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などに関する基本的な知識と技能を学ぶ。また、学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を話し合いや発表・ディベート等の協働を通して主体的に解決する態度を身につけ、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手を育む。調理実習や被服実習を通して体験的に生活スキルを磨く。



情報科

『目的』ではなく『手段』として情報を扱う

情報の授業ではパソコンの操作だけではなく、コンピュータ等の情報機器を効果的に使いながら、情報そのものをいろいろな角度から学ぶことを目標にしている。情報社会・情報デザイン・デジタル・ネットワークなどを通して問題解決力や課題発見力を身につけていくとともに、プログラミング学習にも取り組み、論理的な考え方を養成する。



大高の進路指導

進路状況

1 令和5（2023）年度卒業生 大学入試合格状況

(1) 大学入学共通テスト受験者	192名（昨年197名）
(2) 新卒国公立大学合格者最終延べ数（前・中・後期、独立、推薦）	129名（昨年116名）
(3) 過年度国公立大学合格者最終延べ数（前・中・後期、独立、推薦）	6名（昨年 1名）
(4) 新卒・過年度国公立大学合格者最終延べ数（前・中・後期、独立、推薦）	135名（昨年117名）

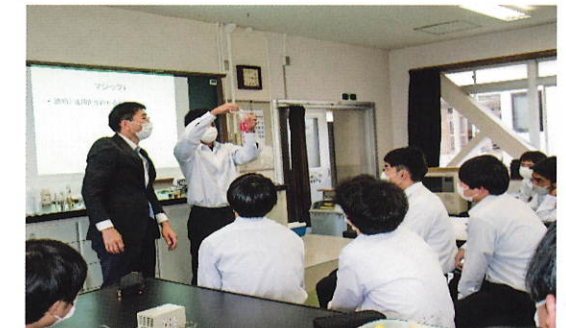
(5) 主要大学の合格者数（卒業年度）											
国公立大	R5年	R4年	R3年	R2年	R1年	私立大	R5年	R4年	R3年	R2年	R1年
東京	1 (1)	0	0	3	2	早稲田	6 (1)	3	2	6	2 (1)
京都	0 (1)	0	0	0	0	慶應義塾	3 (1)	2	0 (4)	5	2 (1)
東京工業	0	1	0	0	0 (1)	上智	1	1	1	0	0 (1)
一橋	1	0	0	0	0	青山学院	4	2	3	7	1 (1)
大阪	0	0	0	0	0	学習院	3	0	1	1	0
名古屋	0	0	1	0	0	中央	9 (1)	14	16	11 (2)	9
東北	5	6	3	7	7	東京理科	3 (2)	3	7	11	11 (2)
北海道	1	0	0	1	0	法政	10	5 (1)	12 (1)	20 (1)	11 (1)
神戸	0	0	0	0	0	明治	12 (2)	7	10 (2)	22 (1)	4 (1)
東京外国語	1	1	0	0	0	立教	2	5	3	4	2 (1)
筑波	0 (1)	2	0	4	2	関西	1	0	0	0	1
千葉	3	4	3	5	0	関西学院	0	2	2 (3)	1	1
埼玉	11	3	6	5	8	同志社	0 (1)	1	0	2	1
新潟	11	10	23	9 (1)	11	立命館	3 (1)	3	6 (1)	6 (1)	1
金沢	1	0	2	2	0	駒澤	4	1	11	10	10
横浜国立	2	0	0	1	2 (1)	芝浦工業	10 (1)	12	28 (1)	14	18
東京学芸	1 (1)	0	0	2	1	専修	7	7	3 (2)	11 (1)	10
東京農工	2	2	0 (1)	0	1	東海	12 (1)	10	21	18	14
電気通信	3	2	1	0	1	東洋	24	34 (1)	14 (3)	6	2
静岡	1	6	6	3	2 (1)	日本	20 (1)	47 (1)	42 (3)	33 (3)	32
山形	13	10	14 (2)	5	12 (1)	神奈川	6	2	7	10	10
茨城	4	2	2	2	1	国際医療福祉	9	16	14 (1)	17	13
宇都宮	21	18	19	19	21	獨協医科	0	3	0	0	0
東京都立	0	0	0	2	0	自治医科	0	1	0	0	0
その他	47 (1)	49 (1)	64 (2)	40	51	その他	153 (1)	156 (1)	233 (7)	175 (1)	165
現役前期合格者	113 (含総)	97 (含総)	128 (含総)	92 (含AO)	110 (含AO)	現役私立大合格者	302	337	436	390	320
現役国公立合格者	129	116	144	110	122	GMARCH・関関同立以上の合格者	57	48	63	96	46

2 専門学校 3 名
3 就職 2 名

キャリア教育

出前授業

出前授業とは、大学の教員を高校に招き、大学の講義を受けられる行事です。高校生にとっては、大学レベルの学びにじかに触れられることが最大のメリットといえるでしょう。また、大学ならではの講義を聞いて、受験へのモチベーションが上がることも期待できるものです。昨年度はさまざまな大学から11名の先生方を招き、1・2年生全員が、文系・理系の区別なく自分の関心のある分野を2つ選び、講義を受けました。個々の学問の基本について一から学べる講義や、理工系などでは最先端の研究内容を知ることができる講義もあり、自分がどんなことに関心があるのかなど、進路選択について改めて考えるよい機会となりました。



キャリア探訪会@オンライン

例年夏休み期間を利用して、希望者がOBの働く企業や職場を訪ねる職場見学学習会を実施していましたが、コロナ禍のため実施できなくなっていました。しかし、昨年度はZoomを用いて、1・2年生全員が自分の関心のある企業等に勤めるOBの話を聞く、キャリア探訪会なるものを実施しました。下の写真はそのPC上の画面で、全部で15名のOBのブースを設け、オンライン上でOBの方々の説明を聞いたり質問したりしました。普段では聞くことのできない、仕事に関する一歩踏み込んだ話を聞くことができ、将来の進路設計に大きく役立つものとなりました。



VOICE



東京大学 文科Ⅲ 栗田秀雅
(2023年度卒)

青春重視で共学、進学重視で宇都宮。その狭間にある大田原高校。そんな感じでしょうか。男子高で送る高校生活ほど楽しいものはありません。笑わない日は無いでしょう。大高には面白い、かつ心の支えとなる人がたくさんいます。友人だけでなく先生も含めてです。成績に悩んだり、やる気をなくしたりしたことがあっても常に近くに仲間がいます。私自身、友人と励まし合い、喝を入れ合ってこそ受験を乗り越えられたと思います。大高での3年間は最高の思い出です。皆さんも一生の仲間を大高で作ってください！



北海道大学 総合教育部理系 菅野 十梧
(2023年度卒)

私が大高で過ごした3年間は、部活や勉強で充実したかけがえのないものになりました。特に勉強面では、先生方全員が真摯に生徒たちと向き合い、徹底的にサポートしてくれます。私が塾なしで第1志望に合格することが出来たのは、先生方の厚いサポートのおかげであると言っても過言ではありません。また、大高は勉強だけではなく、85キロ強歩や文化祭など、行事の熱量が凄いです。そういった行事も全力で楽しみましょう。女子はいませんが、充実した学校生活になること間違いなしです。アイラブ大高！

VOICE



一橋大学 商学部 増居 遥也
(2023年度卒)

私にとって大田原高校はとても過ごしやすい空間でした。勉強面では、同じ志をもつ仲間と切磋琢磨しながら取り組むことができ、受験勉強をするにあたって本当にありがたい環境だったと感じています。放課後や休みの日に学校の友達と一緒に勉強したことは今となってはかけがえのない経験だったと思います。また大田原高校は行事や部活動も盛んに行われています。みんなが熱量をもって参加するので本当に楽しむことができるし、多くの友達との絆を深めることができます。男子校ということもあり私は本当に笑いの絶えない三年間を送ることができました。皆さんにもぜひこの大田原高校で充実した高校生活を送ってほしいと思います。



東北大学工学部建築・社会環境工学科 田辺 翼
(2023年度卒)

大田原高校での3年間は最高に充実した時間でした。コロナ禍の大高祭と修学旅行、雨の中の強歩、そして共テ明けの寒稽古など数え切れないほどの思い出ができました。受験勉強は辛い時もありましたが、友達と一緒に頑張ることは楽しかったし、今となっては忘れられない思い出です。そんな苦楽を共にした友人たちとは卒業後もよく集まり、高校時代の話で盛り上がっています。ですから、後輩の皆さんには高校での出会いを大切に、大高でしか味わえない、一生忘れられない3年間を送ってほしいと思います。

年間行事



5月には85キロ強歩、9月には大高祭、10月には校内球技大会、1月には朝6時20分から行われる寒稽古と、仲間との絆を深め、精神力も鍛えられる行事が充実している。大高生は、何事にも手を抜かず全力で楽しむ。特に85キロ強歩の経験は、受験やその後の人生において心の支えとなっている。

大高の伝統行事

85 キロ強歩

「大高」と言えば「85 キロ強歩」。「強歩」と言えば「大高」。こう言われるまでに知名度も高くなってきた当行事は、昭和61年度に始まった。正門を発着点とし、生徒達を育んだ那須野が原扇状地を大きく一回りするコースを2日間約25時間かけて昼夜歩き通す、過酷な行事である。生徒達はこの行事を通して、友だちとの絆を深め、保護者の支援や地域の方々の声援に感謝し、一回りも二回りも成長していく。



寒稽古

1月大寒の時期に行われる伝統行事である。まだ太陽が昇らない早朝から稽古が開始され、薄明かりの中に吐く息の白さがひととき目立つ中、7キロの耐寒マラソンはスタートする。



その他の主な行事

入学式



新入生による宣誓

創立記念講演



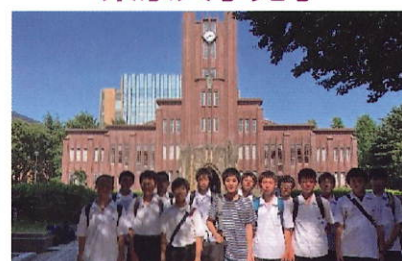
大高OBを招いての講演会

生徒総会



総会の様子

東京大学見学



東京大学キャンパス前 OBと共に

大高祭



クラスイベントの様子

校内球技大会



学年別で行われた球技大会

福祉教育講演会



福祉への理解を深める講演会

修学旅行



2年生沖縄での平和学習

卒業式



卒業証書授与

VOICE



完全燃焼 85 キロ

生徒会長 3年 薄井 惇

完全な形で85キロ強歩の実施は実に5年ぶりとなりました。本来であれば昨年から予定されていましたが、不幸にも大雨に見舞われ、最後まで歩き通すことが叶いませんでした。そのような経緯があったからこそ、実施の前日には大田原高校全体が沸き立っているように感じられました。実際に歩く85kmは予想よりもはるかに長く、つらい道のりでもありました。しかし、歩き切った時に全身を駆け巡った達成感はないほどのものでした。これは、85キロ強歩でしか得られない特別なものだと思います。この長い長い道のりを歩き切った経験は、私の人生において大きな財産となると確信しています。



85 キロ強歩での成長

強歩委員長 3年 渡辺 優人

私たちは、昭和時代からの伝統「85キロ強歩」を5年ぶりに完歩しました。私が強歩委員長になったのは、「大田原高等学校で強歩を完歩する」ことが入学理由であったからです。辛い時でも、隣を歩む友の存在や、85キロ強歩を完歩できなかった先輩方の無念、支えてくださった先生方や保護者の方々のご期待のおかげで、私たちは歩み続けることが出来ました。そしてゴールである校門の前には、感動的な景色が広がっていました。この強歩を通し、私たちは精神的に大きく成長することができました。当たり前ではない当たり前への感謝を学ぶことが出来ました。

部活動

■文化部

スーパーサイエンスクラブ (SSC) 合唱 吹奏楽 美術 青少年赤十字 (JRC) 文芸
囲碁・将棋 写真 書道 英語 調理 アマチュア無線 (休部) クイズ研究同好会
フタ芸同好会 (應援団)



(山岳部・スキー部を除く掲載写真は写真部撮影)

全国・関東大会実績 (2023 年度)

S S C

宇宙エレベーターロボット競技会全国大会 出場
日本原子力文化財団主催課題研究成果発表会 優秀賞
サイエンスキャスル 2023 関西大会 ポスター発表奨励賞

英 語

日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 出場

吹 奏 楽

東関東吹奏楽選抜吹奏楽大会 金賞

写 真

関東地区高等学校写真展栃木大会 奨励賞

囲碁・将棋

関東地区高等学校文化連盟将棋大会 出場



宇宙エレベーターロボット
競技会全国大会出場
SSC 部



日本高校生パラメンタリー
ディベート連盟杯出場
英語部

VOICE



SSC 部 2 年 折井 孝浩

私は、高校に入ったら部活をやるとはありませんでした。しかし、部活動見学の際に SSC 部が楽しそうだなと思い入部しました。大田原高校は授業のスピードも速く、日頃の予習復習や部活が忙しいときは大変です。しかし、物理チャレンジや化学グランプリに参加すると、終わった後に、多くの達成感を得ることができました。また、物理分野や化学分野生物分野などで自分の好きな研究をすることができます。そこから私は実験し、レポートにまとめることの楽しさを知ることができました。これからも部活と学習、どちらの目標も達成できるように頑張っていきたいです。



吹奏楽部 2 年 渡邊 聡大

私は勉強と部活を両立したいという思いで大田原高校に入学しました。そのため、私は勉強だけでなく、部活にも力を入れています。私は高校から吹奏楽を始め、今年で 2 年目になります。最初の頃はできない事や分からない事が多く、ついていくのに必死でしたが、先輩方や先生方のご指導の下、現在は楽しく活動することができています。我々、大田原高校吹奏楽部の部員は高校から始めたという人がほとんどです。少しでも興味がある人はぜひ吹奏楽へ!! 経験者だけでなく初心者も大歓迎です。皆様のご入学、そして入部お待ちしております。

■運動部

陸上競技 水泳 野球 サッカー バスケットボール バレーボール ソフトテニス 卓球
弓道 柔道・相撲 剣道 バドミントン 山岳 硬式テニス スポーツチャンバラ スキー



全国・関東大会実績 (2023 年度)

スポーツチャンバラ

全国少年少女スポーツチャンバラ選手権大会

長剣両手第 2 位

山 岳

全国高等学校総合体育登山大会 出場

ス キ ー

全国高等学校総合体育大会スキー大会 出場

国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会 出場

関東高等学校スキー大会 出場

陸 上 競 技

関東高等学校陸上競技大会 出場

関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会 出場

相 撲

関東高等学校相撲大会 出場

ソフトテニス

関東高等学校ソフトテニス選手権大会

兼 団体選手権大会 出場



全国高等学校総合体育
登山大会出場
山岳部



全国少年少女スポーツ
チャンバラ選手権大会
長剣両手第 2 位
藤田 理央 選手



全国高等学校総合体育
大会スキー大会出場
大森 匠 選手

VOICE



野球部 2 年 山崎 仁愛

私は、小さい頃から野球をしており、将来も野球に携わる仕事に就きたいと思っています。夢実現のために、野球と勉強のどちらもレベルの高い大田原高校に入学しました。大田原高校の野球部は野球好きの集まりです。また、一つでも上を目指し、自分に厳しく、日々切磋琢磨しながら、野球に取り組んでいます。これまで辛いことや過酷なこともありましたが、仲間と協力し合い、乗り越えることができました。大田原高校野球部の目標である、県大会ベスト 8 を達成するため、これからも文武両道を心に刻み、頑張っていきたいです。



バスケ部 2 年 和氣優真

私は、校訓「質素堅実」のもと、夢なきところに努力なし、文武両道を実現する、という強い気持ちで大田原高校に入学しました。週 6 回のバスケットボールの練習に青春を捧げながら、レベルの高い授業についていくことは、簡単なことではありません。中学時代の勉強の仕方では、全くついていけません。周りのレベルの高さに入学当初は驚かされました。しかし、文武両道を成し遂げるため、日々努力しています。本校は、朝学習時間を設けており、早く登校をして学習時間を確保するよう時間の使い方を改善しながら過ごしています。文武両道を実行し、結果を残す。大田原高校で出会った仲間と共に、大学進学にバスケと目標に到達できるよう頑張りたいです。

大高の歴史

本校は明治35年、栃木県5番目の県立中学校として紫塚の地に呱呱(ここ)の声を挙げた。爾来、121年の長きに亘り、県内屈指の中学校、高等学校として、その歴史を営々として刻んできた。この間、数次の戦争や敗戦後の混乱、占領と学制改革など激動の時代にあってなお、幾多の有為の人材を輩出し続けてきた。けだし、いずれの時代にも本校は大きな期待に応えるべく普遍の理想を掲げ、多くの関係者の支援に支えられ、時に耐えつつ、着実な歩みを進めてきたのである。



(明治43年校舎全景)

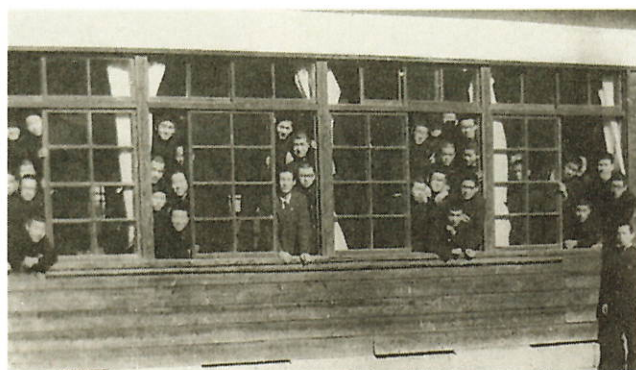
校訓「質素堅実」は、昭和12年改正の大田原中学校校歌に「雲表群立つ那須の五峯、萬古不動の崇き姿。日毎に競ひて堅實の大旆がざし雄叫びあげよ。希望の高嶺に固きは誓。みなこれ、みなこれ、大中健児の矜。」とあり、現校歌に「若き生命の感激は 紫塚の学び舎に 那須の峰々仰ぐとき 面に瞳に湧き上る 大高高火ともゆる われらの理想 質素堅実」とあるように、創立以来一貫した本校生徒の理想であり、大高健児の伝統として連綿と受け継がれてきた。卒業生は2万5千人を超え、多くの分野で活躍している。



(「質素堅実」の碑)



(今に引き継がれる黙想)



(教室の外部)



(明治40年第1回卒業生)



(昭和23年中大最後の門標を背にして)

各分野で活躍する卒業生



国際基督教大学名誉教授 広島県公立大学法人理事長

鈴木 典比古 すずき・のりひこ

1945年栃木県生まれ。一橋大学経済学修士課程。インディアナ大学経営大学院博士課程DBA(経営学博士)。ワシントン州立大学助教授・準教授、イリノイ大学助教授、国際基督教大学教授等を経て、2004～2012年まで国際基督教大学学長。大学基準協会専務理事を経て、2013～2021年まで国際教養大学理事長・学長。内閣官房教育再生実行会議有識者、中央教育審議会大学分科会委員、大高等教育質保証学会会長等を歴任。

＜主な著書＞『多国籍企業経営論』(同文館、1988年) 経営科学文献賞、『国際マーケティング』(同文館、1989年)、『企業戦略と国際関係論』(有斐閣、1995年)、『多国籍企業と国際関係の統合理論』(国際書院、1997年)、『国際経営政治学』(文真堂、2000年)、『グローバル教育財移動理論』(文真堂、2014年)、『なぜ国際教養大学はすごいのか』(PHP新書、2016年) 他論文多数。

Message

栃木県立大田原高校を目指す諸君にメッセージを送ります。高校時代の勉強は実際に教室で勉強することと自分が将来生きていく方向とが一本のレールにつながっていることを実感する初めての経験になります。その為には、自分が将来何になりたいかを想像してください。その夢が毎日の勉強を導いていくでしょう。勉強は「自分の、自分による、自分の為の投資」です。これ以上確実で高利回りの投資は存在しません。



東京大学大学院
農学生命科学研究科

教授 溝口 勝

みぞぐち・まさる

1960年大田原市加治屋生まれ。1982年東京大学農学部農業工学科卒業。1984年東京

大学大学院農学系研究科博士課程中退し三重大学農学部助手、農学博士(東京大学)、三重大学農生物資源学部助教授、1999年東京大学大学院農学生命科学研究科助教授、2003年内閣府技官(参事官補佐)併任後、2008年東京大学大学院情報学環教授を経て、2010年より現職。専門は土壌物理学・農業土壌学・国際情報農学。土壌物理学会長、農業農村工学会理事等を歴任。2011年の東日本震災以降、福島県飯館村に通い地元農家やNPO法人メンバーと共に農業ICTを活用した福島県の農業再生のための活動を続けている。(東大農学部ハチ公像の前で撮影した写真。ハチ公の飼主は東大農業工学科の創始者・上野英三郎教授。)

Message

1に体力、2に食欲、3・4がなくて、5にジョーク。10代にはまず、長い人生を生き抜くための体力の基礎を固める。そのために食事の好き嫌いをなくしておく。3・4は何でもよい、ただし人間は一人で生きているわけなので人間関係を円滑にするためにジョークのセンスを磨いておくといい。強いて言えば、3は専門、4は趣味かな。中高生時代は正義感と若い感性を大切にしながらじっくりと3・4の基礎を作ることが大切です。



海洋研究開発機構(JAMSTEC)
生物地球化学センター

センター長代理 高野 淑識

たかの・よしのり

1975年矢板市生まれ。1998年筑波大学 自然科学類 化学専攻卒業。筑波大学大学院理工学研究科修士課程修了、横浜国立大学大学院工学研究科 博士課程修了。博士(工学)。産業技術総合研究所(旧 通産省 工業技術院)

特別研究員、ドイツ・ブレーメン大学 客員研究員、東京大学大学院理学系研究科 准教授などを経て、2020年より、同センター長代理・有機分子研究グループリーダー。現在、アメリカ航空宇宙局(NASA) 招聘研究員、慶応義塾大学大学院 特任准教授を兼任。2005-2006年 南極地域観測隊。専門は、地球宇宙化学、地球生命科学、地球惑星科学。中世の大航海時代、ハイリスクな航路開拓に挑戦したマゼラン、ガマ、コロンブスらの冒険家は、莫大な投資に対して、「わずかに持ち帰った胡椒(こしょう)」で、瞬時に大航海の冒険を成就させました。ピンセットで一つひとつ黒い胡椒をつまんで調べたという逸話もあります。「はやぶさ2」プロジェクトは、炭素質小惑星「リュウグウ」からのサンプルリターンを成功させ、『太陽系大航海時代』を独走しています。この第一級のサイエンスに携わる発端は、高校時代の「化学」好きから始まりました。有機地球宇宙化学者として大変な幸運です。ワクワクする冒険、日々新たに、日々前進します。

Message

みなさんには、どんな「夢」がありますか。夢をノートや日記に、ぜひ書いてみてください。次に、その夢を周りに語ってみてください。周囲に誠意と感謝をもって接すれば、親身に助言をくれたり、自分が気付かない盲点を指摘してくれたり、温かくエンカレッジしてくれたり、きっと切磋琢磨できる良い関係を築けることでしょう。そして、いつしか、その夢は、本当に「現実」になります。若い時代の「好きこそものの上手なれ。」×「鉄は、熱いうちに打て。」は、足し算ではなく、エキサイティングで、貴重な「かけ算」の進化形です。人生一度きり。思いっきり世界で勝負してみませんか。